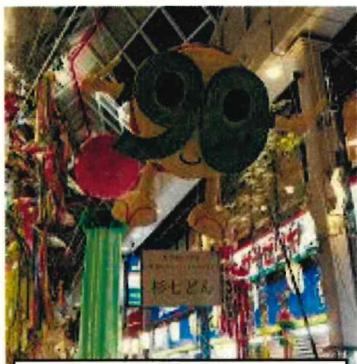


校長室だより

あす 明日は たなばた 七夕です。



7月7日は七夕です。阿佐ヶ谷で七夕と言えば、例年8月初めの週末に行われている「阿佐ヶ谷七夕まつり」ですが、今年は新型コロナウイルスの



昨年の阿佐ヶ谷七夕まつり 中止はとても残念です。一日も早くコロナウイルスに打ち勝ち、来年はまた、みんなで楽しみたいですね。

さて、「阿佐ヶ谷七夕まつり」も1954年から続く歴史あるイベントですが、そもそも七夕という行事は、いったいいつごろから、どんな由来で始まったものなのでしょう。調べてみると、古代日本で行われていた穢れ(けがれ)を清める「棚機(たなばた)」という行事と、奈良時代(およそ1300年前ごろ)に中国から伝わった「乞巧奠(きこうでん)」という行事が合わさって、七夕(しちしき)という宮中行事になったのではないかということがわかりました。とはいっても、多くの人に親しまれる行事になったのは、もっとずっと後のことで、江戸時代に入ってからだと。また、今の七夕まつりのように、短冊に願いごとを書いて巻に飾るのは、日本だけだそうです。

もともとは、織姫伝説を受けて、歌を作ることや裁縫や染物の技の上達を願う行事でしたが、江戸時代ごろから多くの人に親しまれるようになると、広く習い事(習字や学問など)が上手になるよ



令和2年7月6日
校長 齋藤 瑞穂

うに願いをかける行事となり、短冊を書くのは主に子供になっていったそうです。ですから、短冊には、サンタクロースへプレゼントをお願いするのとはちがって、自分が練習に取り組んでがんばっていることについて願いを書いてみるとよいですね。

俳句を募集します。

じめじめしてむし暑い日が続きます。梅雨明けは当分先になりそうですね。

6月は、杉並区読書月間に合わせ、本を読むことをみなさんにおすすめました。7月はどんなチャレンジをおすすめしたらよいかな?と考えているときに、下の俳句と出会いました。

校門に 吸ひこまれゆく 梅雨の傘
廣場 伝

梅雨の時期、傘をさして登校してくる子供たち。それぞれの家から1人ずつ(きょうだい2,3人で来る人もいます)出てくるけれど、学校が近づくにつれてだんだん数がふえてきます。傘も色とりどりに集まり、流れとなって、吸いこまれるように校門に入っていく——。なんとなく気持ちもしづみがちな雨の朝だけれど、そんな登校の風景を思うと、心が少し明るく、軽く浮き立つように感じられました。

俳句は、わずか17音で作る短い詩です。でも、そこから広がる世界はとても豊かです。

- ・17音でつくる。
 - ・季節を表す言葉(季語と言います)を入れる。
- この二つの約束事を守って、みなさんも俳句作りに挑戦してみませんか?
- 校長室前に、短冊と鉛筆、投句箱を準備しておくので、思いついたという人は、ぜひ応募してください。

保護者の皆様

再来週の20日から、保護者面談が始まります。1学期のお子さんの様子から、今年度特に育てていきたいことを担任と共に理解していただく機会となります。短い時間ではありますが、有意義な面談にできるよう、準備を進めています。